

評価項目	評価内容
I. 教育理念・教育目的・教育目標	<p>新カリキュラム始動から4年が経過している。教育理念・目的・目標・卒業生像を具体的に設定し、シラバス、パンフレット、ホームページへの明示を継続した。学生ホールや各教室に掲示することで、学生の学習の指針にもなっている。</p> <p>教育目標については、地域社会のニーズを反映させた実現可能な内容であり、教育理念・目的・卒業生像と一貫性がある。今後も教育目標達成に向けて、教育に関わる全ての関係者が共通認識を図りながら教育活動に取り組んでいく。</p>
II. 教育課程	<p>現代社会における看護への多様なニーズをふまえ、地域の特性を反映させたカリキュラム構成となっている。中でも、「地域と暮らし」「地域・在宅看護論」「地域包括ケア演習」「多職種連携」など、地域医療で求められる能力を育成する科目を段階的に学べるように設定し、学生の興味関心を引く内容としている。また、科目・単元構成も十分検討がなされ、本校の特徴が盛り込まれている。今年度、旧カリキュラム対応学生がすべての科目を修得し、無事卒業を迎えた。各学年の単位未修得者に対してもサポート体制を整え対応することができた。今後も学生に不利益が生じないよう教育計画を整え、単位修得に向け取り組んでいく。教育課程評価においても、倫理規定にもとづき単位認定基準や評価体系が整えられており、個人情報管理も徹底されている。さらに、履修規定や単位認定基準に基づき、卒業判定、単位認定会議により評価がなされている。</p> <p>今年度は教員不足の中、教職員全体で協働体制を築き、業務を遂行することができた。また、教員の自己研鑽システムは整えられているため、今年度も様々な研修に参加することができた。しかし、学生の諸問題やDX化等の様々な対応と教員不足が重なり、本来重点的に取り組むべき授業準備に十分な時間を費やすことができない状況であった。次年度は、教員養成講習会に参加し教員となった2名と、実習指導教員1名採用により増員となるため、業務分担と協働体制を強化し教員の授業準備のための時間を確保できる。教員の質向上につなげつつ各々の教員が専門性を発揮できる環境を整えていく。一方、教員間のDX化におけるICT活用状況には差があるため、継続的な研修の受講や電子教材活用のための情報共有も強化していく必要がある。</p> <p>学生の看護実践体験の保障においては、例年同様実習指導者会議を開催し、学校と施設側の双方で指導・協働体制を図りながら進めることができた。松阪中央総合病院では、看護提供体制がセル方式に変更されたが、指導者が中心となり実習病棟全体での学生サポートにより、効果的な学びにつながっていた。他方で、今年度は一部の実習指導教員と指導者の連携・調整が図れず、学生の効果的な学びに支障が生じた。教員全体で周知し連携・協働体制を再度見直し、学生の学びを最優先できるように取り組んでいく。また、松阪市民病院が令和8年4月1日より指定管理者制度へ移行し「済生会松阪市民病院」と名称変更される。実習調整者が中心となり実習施設の確保に向け計画的に取り組んでいく。</p>
III. 教授・学習・評価過程	<p>講義概要、実習要項において、指導ガイドライン、国家試験出題基準、授業アンケート等をふまえ評価している。そのため、各科目の授業内容の重複や整合性、発展性は明確になっている。次年度も担当教員間の共通認識を深め、授業内容に重複や漏れがないように調整し、進度上の整合性についてもカリキュラム全体を見通しながら教員間で連携を図っていく必要がある。また、学生が主体的に学べるように様々な授業形態をもちいて授業を展開している。DX化導入初年度であったが、その運用については年間を通し順調で大きな問題はなかった。しかし、DX化が教育</p>

	<p>効果にプラスに反映されるかどうかは継続的な評価が必要である。実際に授業中の不適切な iPad の使用など授業に集中できない学生が一定数存在した。さらに、単位修得状況では前年度と比較し再試験数が 3 倍、科目未修得者数が 2 倍、退学者が 2 名、原級留置者が 1 名と低迷した。今後は学生の iPad 使用状況も含め、DX 化のメリット・デメリットを明確にし、授業展開のさらなる工夫が必要である。</p> <p>単位認定のための評価基準と方法は明示され、学生への公表もできており、単位認定会議も開催し、公平性は担保されている。しかし、1 年生が試験関連において上級生の過去試験問題が出回っているとの情報提供により、正解答は公表せず点数結果のみ返却することとした。一部の学生からは、間違っただ所を確認して学習につなげたいという意見もあり、正解答の公表をどのようにしていくかは、今後再検討も必要である。1 年生に関しては、授業評価の未入力者が多く、自由記載での不適切な表現も目立った。授業評価アンケートの目的を再度説明し、学生の協力も得られるように取り組んでいく必要がある。</p> <p>今年度卒業生の学生生活の満足度調査の結果において、シラバスと教育内容は 95% の学生が一致していたと回答した。シラバスの提示や学習への指導法は、養成所全体として一貫性があり、効果的な学習への動機づけと支援につながっているといえる。履修状況においても、1 年生の学力低下はみられるものの 2.3 年生の単位修得状況、実習成績、国家試験対策結果は優秀であり、今年度は看護師国家試験全国業者模擬試験において、参加した 600 校以上ある看護系大学・専門学校で一位の成績を収めることができた。そして、今年度も看護師国家試験に全員合格することができた。</p>
IV. 経営・管理過程	<p>教育理念・目的、教育課程経営、教育評価、管理運営等による考え方の明示がなされ、所属長会議、運営会議も計画通りに行われた。その決定事項は教職員に周知され、管理者と設置者の意思疎通も図れたことで、体制が維持できている。今年度は教員不足にあったが、教職員全体で協力し合いそれぞれの役割を遂行することができた。</p> <p>財政基盤の確保についての考え方は運営規定に明示されている。入学試験の受験者が昨年度より減少したものの入学者数は 43 名となり、学校として財政確保ができた。今年度は光熱費に対する物価高騰対策支援補助金の交付や、三重県看護師等養成所運営費補助金の加算措置の見直しもなされ、155 万円の増額となり、演習で活用する備品購入やブラインドの修繕にあてることができた。今後も教職員、学生が節約の意識を高めながらも、学習・教育の質の維持向上に努めていく。また、今年度より DX 化におけるタブレット端末による講義が開始され、計画的に実施できた。DX 化による印刷代、コピー用紙代の減額については全学年がタブレット活用でないため、中長期的に評価していく。</p> <p>学生生活の支援として、学修継続のための支援制度（松阪地区医療機関奨学金、日本学生支援機構奨学金、高等教育の修学支援制度、厚生労働省教育訓練制度、多子世帯給付奨学金）は多角的に整えられ、その体制を維持し、学生への情報提供も継続できた。さらに、障害者差別解消法の改正に伴い、合理的配慮への義務化が提示されているため、今後は合理的配慮について検討を行い、必要に応じて対応していくこととする。</p> <p>教育・学習活動に関する情報提供の手段としては、ホームページ・Instagram の活用や、必要に応じて保護者連絡や面談などを実施し、協力と支援を得ることにつながることもできた。看護師養成所の存在のアピールについても、Instagram を中心に広報活動ができており、今年度 Instagram のフォロワーが 550 人を超えた。次年度も広報活動を積極的に行い、入学者数の確保につなげていく。</p> <p>年間計画・短期計画は、業務ごとに立案できている。定期的に開催される運営会議においても養成所の将来を見据えた学校運営について協議されているため、この</p>

	<p>体制を維持しながら評価していく。また、自己点検・自己評価体制は整えられ、教職員が意識しながら運用できていた。昨年度の授業評価や課題をふまえ、カリキュラム運営や授業実践につなげていけるよう意識していく必要がある。</p>
V. 入学	<p>令和8年度募集の入学試験は計画通り実施され、入学予定者は43名となり定員数は確保できた。しかし、入学試験の出願者数は高校生・社会人ともに年々減少傾向にある。今後はさらに少子化が進み、高校生の確保が困難となることが予測されるため、社会人の受験者の確保に向けても工夫して取り組んでいく必要がある。次年度も高校訪問や、ハローワーク、市役所等への働きかけを行い、ホームページ、三重県や業者から出版される冊子等での募集要項における入学者選抜の明示を継続していく。</p>
VI. 卒業・就業・進学	<p>学生による卒業時学生生活の満足度アンケートを実施したところ、教育理念にある「地域貢献」「人を大切にする心」「考える力」が身についたと回答した学生が95%であった。新カリキュラムにおいて授業内容を工夫した結果であるといえる。また、今年度卒業生は100%が松阪地区管内に就職が内定していることから教育理念・目標との整合性があるといえる。さらに、今年度の卒業後状況調査の結果、これまでの調査で低評価であった「地域理解」の項目において、平均値2.2から2.6と0.4ポイントの上昇がみられた。調査対象は、新カリキュラム初年度卒業生であり、新カリキュラムで強化した内容が結果に反映しているといえる。一方、「社会人基礎力」「臨床判断能力」「看護実践能力」では身につけていないとの評価が全体の2割程度であり、今後の課題である。</p> <p>今年度も実習病院との連携を密にし、卒業生の活動状況の把握に努めることができた。3年生の卒業前演習においても、同窓会「松看会」の同窓生に一部のシミュレーション教育への参加の協力を仰いだ。リアルな現場の声から深い学びにつながり、シームレスな臨床への移行の一助になったといえる。低学年の演習においても効果的であると考えられるため、授業展開に活用できるよう計画的に進めていく必要がある。</p>
VII. 地域社会・国際交流	<p>実習病院・施設をはじめ、地域の企業や高校、中学などと連携することで地域社会のニーズを把握し、様々な取り組み（科目「地域と暮らし」におけるまち歩き、イオンモール明和での「明和町まちおこしお仕事体験」、消防団活動、松阪マラソンボランティア、ふれあい体育祭、市内中学校での「わくわくスクール」等）に積極的に参加することができた。学生に対しても、教育理念にもとづき、地域貢献できる学生を育成するために授業・演習・実習内容を工夫している。今年度は「地域・在宅看護論」で実施した初めての過疎地での実習において、地域の特性を意識した指導がなされ、学生の学びにつながっていた。これらの内容に関してはInstagram等で発信しており、今後も継続していく。</p> <p>国際的視野の拡大を目的とする科目は、シラバス通りに開講された。今年度は帰国学生や留学生の出願はなかったが、希望があった場合には柔軟に対応できる体制を整えていく。</p>
VIII. 研究	<p>研究活動の保障のため、「公益社団法人松阪地区医師会倫理規定」に研究の項目が追加となり、規定が改訂された。それに伴い、令和7年10月8日より「松阪地区医師会倫理審査委員会規程」が施行された。しかし、今年度は時間的、人力的余裕のなさから研究活動は積極的とはいえなかった。少しでも研究活動が活発化するよう教員一人ひとりが意識をしながら、相互で支援し合える文化的素地づくりに取り組んでいく。</p>

# R 7年度評価項目ごとの点数

松阪看護専門学校

評価項目	R7年度 評価点数	R6年度 評価点数	R5年度 評価点数
I. 教育理念・教育目的・ 教育目標	3.0	3.0	3.0
II. 教育課程	2.9	3.0	3.0
III. 教授・学習・評価過程	3.0	3.0	3.0
IV. 経営・管理過程	3.0	2.9	2.9
V. 入学	3.0	3.0	3.0
VI. 卒業・就業・進学	3.0	3.0	3.0
VII. 地域社会・国際交流	3.0	3.0	3.0
VIII. 研究	2.9	2.6	2.6

## 評価点数

